

発行元  
東京新聞  
南千住専売所  
Tel3803-1781

発行責任者  
鬼塚 佳代子  
Tel090 (2657) 0300

### 新たな気持ちで 素盞雄神社

素盞雄神社は、平成7年に御鎮座1200年祭が斉行されました。荒川区南千住・三川島（現：荒川）・町屋・台東区三之輪の区内で最も広い氏子区域61ヶ町の鎮守です。

平安時代延暦14年（795）4月8日の夜、瑞光石（小塚の中の奇岩）が突如光を放ち二柱の神様が翁に姿を変えて現れ、「吾はスサノオ大神・アスカ大神なり。吾れを祀らば疫病を祓い福を増し、永く此の郷土を栄えしめん。」と黒珍に御神託を授け素盞雄神社が創建されました。

次いで6月3日スサノオ大神の御社殿を西向きに、9月15日アスカ大神の御社殿を南向きに造営し、4月8日「御創建疫神祭」・6月3日「天王祭」・9月5日「飛鳥祭」の祭禮日・が定まりました。江戸時代享保3年（1718）、類焼による両社炎上のため、同12年に相殿（あいどの：一つの御社殿）として二柱を祀る御殿（瑞光殿：ずいこうでん）を新たに建築し奉斎しました。

#### ■素盞雄大神

飛鳥大神天照大御神の御弟神です。

八俣大蛇を退治し、その尾から天叢雲劍、

後の三種の神器の一つ（草薙の劍）を取り出し、天照大御神に献上した勇敢な神様。また八俣大蛇から助けた櫛稲田姫との間に多くの御子神をもうけ、出雲国須賀という地で幸せな家庭を築いた神様として知られています。

「スサ」には「荒・清浄」の意味があり、罪・穢・災・厄など身に降りかかる悪しきこと諸々を、荒々しい程の強い力で祓い清める災厄除けの神様で、別名を牛頭天王ごずてんのうと言う為に通称を「お天王さま」といいます。

#### ■飛鳥大神

大国主神（だいきこく様）の御子神です。別名を事代主神ことしろぬしのかみ・一言主神ひとことといい、善悪を一言で判断し得る明智を持たれた神様。後世には福の神としての性格が強まり、商工業繁栄・商売繁昌の「えびす様」として崇敬されています。

素盞雄神社は、年越しの大祓おおほらいと6月に夏越なごしの大祓で罪、穢けがれを清めます。歳末の行事として大掃除することは、けじめをつけ来年に向けて新しい生命力を受けたいという気持ちで日本人の心の中にあるからではないでしょうか。

十二月の末日、大晦日は「大つごもり」ともいわれます。「晦」という字は「暗い」という意味です。旧暦三十日は月の

出ない闇夜ですので、月が隠れるということ、 「月ごもり」といい、それが「つごもり」と呼ばれるようになり、一年の最後の日を「大晦日」「大つごもり」といわれるようになりました。本来、大晦日は新たな心で新年を迎えるため静かにこもつて、時を過ごすためにあります。落語では、大晦日（つごもり）は借金取りなど「いろんな都合」が盛るからだと言っています。

『父祖の地に闇のしづまる大晦日』

飯田蛇笏

そして元旦。

元旦の午前零時より歳旦祭が、報鼓と共に始まります。境内では、お神酒が配られ甘酒が振舞われます。（2時位迄）一般の方のお祓は、午前9時より受け付けます。元旦は、獅子舞・お神楽、2日は詩吟の奉納・相撲甚句の奉納があり、3日は神楽殿でお神楽があります。

お賽銭（神様へのお供え物）をあげて二礼二拍手した手を合わせて心の中で祈願、最後に一礼が、ご参拝の作法です。さっぱり、清めて新年を素盞雄神社で迎えてみませんか。

#### 素盞雄神社

住所：南千住 6-60-1  
電話：3891-8281  
Fax：3891-0222

第20号  
平成18年  
12月23日

# すまいるたん

